

報告事項ウ

第4回及び第5回鳥取県立美術館候補地評価等専門委員会の概要について

第4回及び第5回鳥取県立美術館候補地評価等専門委員会の概要について、別紙のとおり報告します。

平成28年6月23日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

第4回及び第5回鳥取県立美術館候補地評価等専門委員会の概要について

平成28年6月23日
県立博物館

1 第4回専門委員会（5月23日）

- これまでの専門委員の候補地の評価に対し、候補地を推薦した市町から評価ポイントの見落としや誤解に基づく評価がないか報告を求め、23日の専門委員会では、その報告内容を説明したが、専門委員から特段の発言はなかった。
- これまでの審議結果及び今回の市町からの意見等を踏まえ、各委員が必要ななら評価を修正し、その結果を整理して、6月21日に開催予定の5回目の専門委員会で改めて審議し、明らかに候補地として不適当な場所を除くなどして、多くても候補地を3～4か所に絞り込めるようにすることとした。

(1) 市町からの意見（主なもの）

ア 湖山池公園・湖山池オアシスパーク

○委員の評価：バス路線の増便、バス停新設は困難である。

→鳥取市の意見：将来的に交通アクセス（道路整備、バス停、バス路線など）が変わる可能性も含め客観的に評価されたい。

県立美術館が開設されれば、運行本数を増便する必要があると考えているが、近隣を運航している路線を美術館付近経由とすることで、路線バスによるアクセスの改善は十分可能と思う。

イ 旧鳥取県運転免許試験場跡地

○委員の評価：交通アクセスが悪い。県内外の観光客にとって行きやすい場所とは言えない。

→北栄町の意見：県民生活、県内観光では自家用車・貸切バスが主な移動手段であることを考えれば、最もアクセスしやすい場所。公共交通機関利用でも、JRとバスの双方が利用でき、利用客が増えればJRの特急・快速列車の停車、列車・バス本数の増便も検討されると考える。

○委員の評価：近隣の青山剛昌ふるさと館は、利用者の年齢層に偏りがある。

→北栄町の意見：確かにファミリー層と若者の来館が多いが、県立美術館のコンセプトには、子ども達を含むあらゆる年齢層に開かれていること、次代の子ども達へつなげていくことが盛り込まれており、若年層を取り込む努力は大切。

○委員の評価：美術館による地域再生は困難と思われる。

→北栄町の意見：北栄町では多くの団体が様々な文化・芸術活動、地域づくり活動を行ってきており、県立美術館が建設されれば、地域づくりの中核として更に充実した活動が期待できる。

ウ その他（全般）

○鳥取市の意見：経済・文化団体等と一緒に美術館の利用者増につながる協力支援を行う、県民ギャラリー機能は市が整備する等、県と連携して地域再生を進める意思・意欲を示している点を見落とされていないか。

○湯梨浜町の意見（複数を推薦しているが、どれが一番良いと考えているのかという委員の意見に対して）：各候補地に優れた点があり、コンセプト次第で順位が変わる。

○湯梨浜町の意見：コンセプトで市街地型を強調しすぎ。優れた自然景観等を活用・アピールする美術館とすべき。

(2) 確認事項（主なもの）

- ア 鳥取市役所跡地の土壌中のヒ素の処理費用（5億円以上）は、19,000 m³の残土を処分した場合で、処理量が減れば、そこまでかからない。
- イ 候補地の既存建物の多くは、市町が撤去。
- ウ 鳥取砂丘西側は自然公園法の規制が厳しく、地下構造とすれば12億円程度建設費が増加する恐れがある。

(3) 評価の進め方

- ア これまでの委員の評価や今回の市町からの意見等を踏まえ、必要があればこれまでの評価を訂正し、提出していただく。
- イ 各条件についての評価は、当該条件に係る分野を専門とする委員の評価をベースとして行うこととし、当該条件に係る他の委員の評価は、専門の委員が評価を行う際に参考として貰う。
- ウ 次回（6/21に予定）は、各委員が一致して適地でないと判断する場所を除外していつて、多くても3～4か所に絞り込めるように評価を進める。

2 第5回専門委員会（6月21日）

○これまでの審議結果及び市町からの意見等を踏まえ、各委員が評価を見直した結果について、6月21日に開催した5回目の専門委員会で審議した結果、鳥取市役所跡地、鳥取砂丘西側一帯、倉吉市営ラグビー場、旧鳥取県運転免許試験場跡地の4カ所の候補地が、総合的に見て他の候補地より立地場所に適していると評価された。

○今後は美術館整備基本構想検討委員会で、この4カ所について、推薦市町から提示された協力内容等も踏まえ、そこに整備される美術館がどのようなものになるか、特徴やメリット・デメリット等を整理した上で、県民意識調査の結果等も参考にして、最も適切な場所を選定していただく。

(1) 専門委員の意見（主なもの）

- ア 検討の進め方
 - ・○と○△の数及び×と△×の数を勘案しつつも、単純にそれらの数で決めずに、×等が多くても評価すべき点がないか、逆に○等が多くても評価できない点がないか、丁寧に議論・検証しながら適地とすべきか否か判断していくべき。（→そのように議論を進めていただいた。）
- イ 評価時の議論（他より適しているとされた候補地について）
 - (ア) 鳥取市役所跡地
 - ・訴訟中でどうなるか不透明な場所を適しているとするのは無責任だと思う。
 - ・市街地の真ん中で適性が高い場所を、訴訟の行方が不透明だからといって今不適切としてしまうのも問題がある。
 - ・判決を踏まえて最終判断がなされるのであれば、敢えて今適していないと評価しなくても良い。
 - ・ヒ素の処分費用が必要となるので、余り適しているとは思わないが、今そういう評価をしないのなら、今後、鳥取市の協力の内容を精査していく必要がある。

(イ) 鳥取砂丘西側一帯

- ・国立公園内で色々と規制があり、分棟化や地下通路が必要となるなど制約が多いため、多額の建築費等が見込まれる。
- ・構想検討委員会で検討される時に、異なるタイプの候補地があった方がよいので、敢えて今適していないと評価しなくても良い。

(ウ) 倉吉市営ラグビー場（適していると評価することについて特に異論なし）

(エ) 旧鳥取県運転免許試験場跡地（適していると評価することについて特に異論なし）

ウ 評価時の議論（適していないとされた候補地について）

(ア) わらべ館駐車場と西町緑地

- ・敷地が狭いが、交通便利で工夫すれば良い施設になる可能性がある。
- ・周辺に住宅が密集しており、建築後に近隣との紛争も懸念される。

(イ) 鳥取市民武道館跡地

- ・とりぎん文化会館、県立図書館、わらべ館に近く、鳥取城跡・仁風閣などもあり、連携しやすく集客も期待できる。
- ・建物敷地として想定されているのは、武道館敷地のみで狭い。周辺一帯で駐車場が不足しており問題が多い。

(ウ) 湖山池公園・湖山池オアシスパーク

- ・美術館ができれば大きな文化拠点になる可能性はあるが、バスも少なく駅から遠いので、多くの市民が来るのは難しい。

(エ) 三朝町ふるさと健康むら

- ・温泉が活用できるのは、他地区にはない利点。川があって景色も良い。
- ・背後地が急峻で土砂災害の危険がある。

(オ) 羽合野球場

- ・駐車場も十分確保できるし、周辺にはテニスコートもある。
- ・背後地が急峻で土砂災害の危険がある。

(キ) 長和田地内候補地（適していないと評価することについて特に異論なし）

(ク) 旧旅館団地（適していないと評価することについて特に異論なし）

(カ) 伯耆町すこやか村

- ・防災上は問題はないが、冬季は雪で閉鎖となる等、全体としての評価は高くない。

(キ) 鳥取市桂見（適していないと評価することについて特に異論なし）

(2) 今後の進め方

ア 今回の審議結果は、6月27日に開催する美術館整備基本構想検討委員会で報告する。

イ 他の候補地より立地場所に適していると評価された候補地については、推薦市町から提示された協力内容等も踏まえ、そこに整備される美術館がどのようなものになるか、特徴やメリット・デメリット等を整理した上で、県民意識調査の結果等も参考にして、その次の美術館整備基本構想検討委員会で最も適切な場所を選定していただく。

ウ その委員会には、専門委員にも参加していただいて、アドバイス等をお願いしたい。